



【原発事故からまもなく5年。今年を測定所運動の飛躍の年に】

昨年は、京都北部・市民放射能測定所たんぽぽ、おうみ市民放射能測定所が開所し、市民測定所西日本ネットワークにも加わっていただきました。また、鈴木診療所さんも放射能測定室を開設し、アレルギー症状が出ている患者さんが摂っている食材の放射能測定を手がけています。いずれの測定所（室）も、当所と同じ測定器（ATOMTEX社・AT1320A）を導入しています。測定所（とくにAT機）が増えることはとてもうれしく心強いです。

特に京都北部・市民放射能測定所たんぽぽさんの開所は、2014年11月に「第2回市民測定所まつり in 綾部」での出会いから開所に至ったので、感慨深いものが有ります。綾部市でのまつり開催にむけて何度も綾部市に通い、幼稚園、保育所、病院、労働組合、市民団体、市民ホール、市民センター、公民館、市民活動センターなどを回って協力を要請し、チラシの配布をお願いしたことを思い出します。大本教やカトリック教会、グンゼにも行ったっけ。結局、当所の会員さんであった綾部ひまわり共同保育園の職員さんや保護者が測定所まつりに参加してくれたことで、勉強会の開催、作ろう会の立ち上げにつながり、2015年8月の開所へと結実しました。本当にすばらしい出会いとなりました。

さて、ここで今年の決意を2つ。

まず第1は、京都測定所として、福井の原発周辺地域、京都北部、京都市内の環境放射能を継続して測定することで、若狭原発群の稼働による環境への影響を調査していきたいと考えています。こうした取り組みが、原発をなくす取り組みに役に立てばと思います。第2は、3月から6月にかけて西日本ネットに参加する測定所が、測定所まつりや無料測定会などのイベントを連鎖的に開催し、市民測定所の存在と役割を社会的に大きくアピールしていきたいと思っています。この2つを実現したいと思っています。

なお、京都測定所は5月15日（日）の呉竹文化センターで「4周年記念の集い」を開催しますのでお楽しみに。

会員のみなさん。これまで以上に、物心両面のご支援を心からお願いして、当会を代表してのご挨拶とさせていただきます。

2016年1月24日
京都・市民放射能測定所
代表 奥森 祥陽